

2 避難の大切さを知る

災害がおこったとき、自分で考えて避難して、助かった人たちがいます。

ここでの
学習の目標

・災害時に避難することで助かった人がいること、避難することが身を守るためにとても大切であることを理解する

災害がおきたとき、自分の身の安全を守るために、大切なことはなんですか。それは、危険な場所から避難することです。

実際に災害がおきたとき、危険な場所から逃げることで、いのちが助かった人がたくさんいます。

平成24年7月 九州北部豪雨災害

■大分県日田市吹上地区

日田市では、これまでに経験したことのない雨がふって、人が死んだり、1000戸をこえる家が水につかったり、こわれたりする大きな被害が発生しました。



水につかった家や道路

そのとき、
地元の人たちがとった行動は!

①川があふれ出した

↓
近くの避難所に避難

■近くの川があふれて

自宅が水びたしになったので、自治会の人を中心になって近くの避難場所へ移動させました。



黄色の道(—)を通過して避難

②避難所も危なくなってきた

↓
さらに安全な避難所に移動

■まちに流れ込む水の量が

どんどん増えて、さらに危険になったため、自治会の人たちが、安全なルートを通り、より高いところにある避難場所に住民を移動させました。



赤色の道(—)を通過して避難

●身の安全を守ることができたポイント

・地元の人が、いまいる場所が危険だと気づいて、自分たちで考え、より安全な避難場所へ移動したこと。

平成24年7月 九州北部豪雨災害

■熊本県阿蘇市坂梨地区

阿蘇市では、大量の雨がふったため、あちこちで山の斜面がくずれ「土砂災害」が発生。多くの人が死んだり、たくさんの方が家がこわれたりしました。

そのとき、
地元の人たちがとった行動は!

Aさんの例

(市役所からの情報を聞いて避難)

■市役所からくりかえし出される防災情報を聞いて、裏山がくずれられるかとも思い、家族を自宅から安全な場所へ避難させた。その結果、その後に発生した土砂災害から家族を守ることができた。

Bさんの例

(自分の判断で避難)

■防災情報をまったく入手できていなかったが、近くで水が流れる音が気になって眠れなかった。朝6時前、家の上の方のガケがくずれようが見えたため、すぐとなりの方に避難。その後、土砂災害で家が全部こわれたが、前もって避難したので助かった。

●身の安全を守ることができたポイント

- ・防災情報などを参考に、山の斜面がくずれられるかもしれないと考えたこと。
- ・雨や水の音を聞いて、災害が起こるかもしれないと思ったこと。



いのちが助かった人に共通していることは、まわりのようすを見ながら早め早めに避難をしていることだね。避難することの大切さがわかったかな。



山がくずれて流れおちてきた大量の土砂



大量の土砂でこわれた家